

田んぼを活用して農村と都市を守る

—洪水防止機能—

いわみざわしこういききょうてい いわみざわみなみちいきしげんほぜんきょうりよくかい
岩見沢市広域協定（岩見沢南地域資源保全協力会）



岩見沢市広域協定の
マグネットステッカー

岩見沢市は、石狩川の中下流域に位置し、河川の合流部が多いことから洪水による被害を度々受けてきた。同協力会は、5つの農業集落を対象に平成19年3月に設立された。なお、令和元年度からは市内全域を対象とした岩見沢市広域協定に参加している。

協力会では、平成29年度から流域の上下流の会員が一致団結し、自分達で出来る防災対策として、田んぼダムに取り組んでいる。



北海道岩見沢市



田んぼダム堰

〔洪水防止（田んぼダム）〕

協力会では、従来の水管理に併せて V 字型の田んぼダム堰を作成・配布し、各自で設置している。地域の水田約350haに普及され、今後も拡大する方針。そして、協力会と改良区、行政を含む洪水タイムラインを策定し、洪水時の安全な行動を検討している。

内閣府官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）では、農研機構・道総研・北海道・民間企業と連携して、水田での雨水貯留効果の実証にあたっている。

内水位の変動が穏やかになること、堰高管理が省略され事故防止につながるなど、農村部や都市部での防災効果を期待している。

〔環境保全・資源循環・地域社会への貢献〕

地域では、環境保全型農業の取組も多く、IPMや緑肥などを盛んに実践している。また、下水道資源循環型農業も盛んで、稲ワラやモミガラを短期間で腐熟させて施用するなどして、作物の収量増や品質向上に貢献している。

これらの取組により、地球温暖化と水質汚染の防止、生物多様性や地域経済の活性化で効果を発揮し、都市部を含む地域社会に貢献している。



協力会で植樹した桜

環境保全型農業・下水道資源循環型農業の取組



フェロモントラップ



下水汚泥発酵肥料の堆肥



カエルを啄むアオサギ